

Title	唯一神道名法要集(河野省三氏解説, 國民精神文化研究所刊行)
Sub Title	
Author	淺子, 勝二郎(Asako, Shojiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1935
Jtitle	史学 Vol.14, No.2 (1935. 8) ,p.179(361)- 179(361)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19350800-0179

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

何人も之を爲し得なかつた爲であらう。本書の出版に依て、多くの研究家が如何に多くの利便を與へらるゝかは言ふまでもない所である。本書に依て大なる思想を受けつゝある一人として著者の絶大なる努力と根氣に對してこゝに敬意を表すると共に、本書を廣く江湖に推薦する次第である。(今宮新)

唯一神道名法要集 (河野省三氏解説) (國民精神文化研究所刊行)

本書は、國民精神文化文獻三、と銘打つて、國民精神文化研究所から公にされたもので、附録として同所研究囑託河野省三氏の解説がついてゐる。

我が神道史上に、最も大なる組織を有し、近世の信仰、思想に最も著しい影響を與へた神道説の一つは、室町時代の後半期初頭に興つた吉田家の唯一神道で、(元本宗源神道、吉田神道、卜部神道)之を大成したものは吉田兼俱であり、(後花園天皇永享七年(一〇九五)―後柏原天皇永正八年(一一七一)更にその學説を詳述したものが唯一神道名法要集なのである。

本書の奥書は、萬壽元年七月、兼俱の遠祖兼延の述作となつてゐるが、萬壽年間即ち、後一條天皇頃の思想的産物とは到底思はれず、平安朝末期から鎌倉時代の初期のものとしても、更に、建武中興當時のものとしても尙早の感深く、之を神道學説の發達、哲學的思索の過程、神儒佛三教の調和の展開、吉田神道の進歩、或は思想史の進展といったやうな種々の方面から考察して應仁、文明、延徳の時代相を背景とし、之を兼俱に持つて行くのが最も

自然であり、最も多くの妥當性を持つてゐるのである。

本書本文九丁ウラに、「第卅四代推古天皇御宇、上宮太子密奏言、日本生三種子。震且現三枝葉。天竺開花實。故佛法爲萬法之果實。儒教爲萬法之枝葉。神道者爲萬法之根本云云」とあるのは、所謂三教枝葉花實説と稱する、神儒佛三教の極めて巧妙な調和説であつて、兼俱の思想に於いて最もよく展開したものである。

十三丁ウラに、「國者是神國也、道者是神道也、國王者是神皇也」とある一節も、亦注目に値する思想であつて、吉田家の唯一神道の根本的信念であるともいへるのである。就中、神皇の語は、神としての天皇、太祖天照大御神の御子としての天皇と意味するもので、皇道思想の基調である。要するに、神國といひ、神道といひ、神皇といひ、共に相集つて皇道の精神を形成し、惟神(かむながら)の信念を表現するのである。

最後に、本複製は、稀觀の快尊本によつたもので、氏は、これを以て、從來の本書に對する見解を新にする根據を與へるとなし、卜部氏の系圖が、兼俱に終つてゐる點から、故八代博士が、續群書類從本によつて、この書は兼俱の曾孫兼右の述作であらうとされた推測は自然に解消するといはれてゐる。

要するに、本書は、室町時代に於ける國民精神の自覺、日本精神の一展開を示すものであつて、日本思想史日本神道史等の研究を裨益するところ尠くないと信ずる。(淺子勝二郎)

朝鮮史の葉

(今西龍遺著)
(近澤書店刊行)